

福祉教育プログラム

熊谷市役所
社会福祉法人熊谷市社会福祉協議会

はじめに

熊谷市社会福祉協議会(以下社協)では、市内各小中学校・高等学校を『福祉協力校』として指定し、児童生徒が社会福祉への理解と関心を高めることや、家庭や地域社会への福祉の啓発を図る取り組みを推進しています。

福祉教育を展開するうえで、学校、行政、社協、地域が共通認識をもって福祉教育に取り組めるよう、「福祉教育プログラム集」を作成しましたので、ぜひご活用ください。

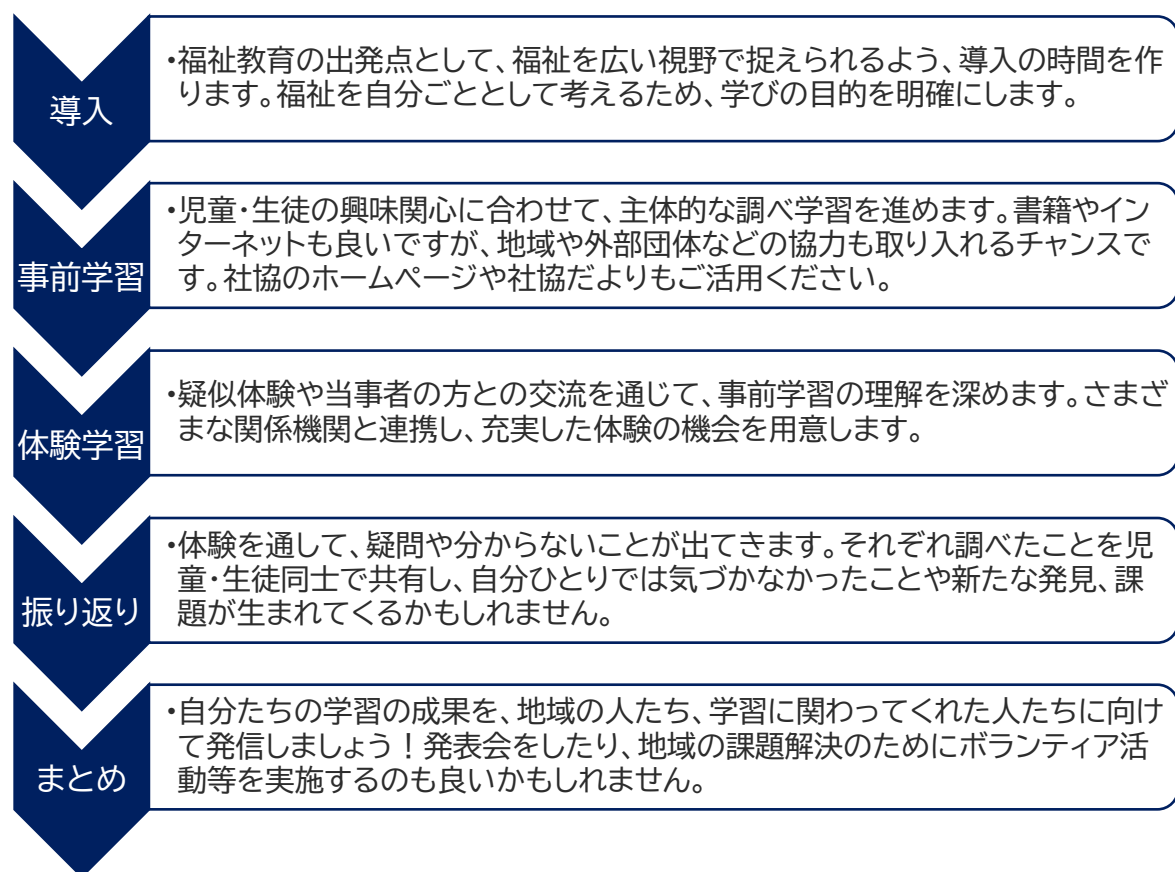
福祉教育のめざすもの

「福祉」とは… ⑤だんの ④らしの ③あわせ

高齢者や障がい者など特定の誰かのためのもではなく、社会に暮らす全ての方が、かけがえのない存在として尊ばれ、社会の中で幸せな生活を送れることです。

そのためには、子どもの頃から「ともに生きる力」を育むことが大切です。子ども達が多様な生き方にふれ、自分の地域の身近な福祉課題に気づき、考えることで、命の大切さや思いやりの心、相手を理解しようとする豊かな心など、「ともに生きる力」を育み、地域共生社会の実現をめざします。

福祉教育のすすめ方



福祉教育実践のポイント

★学習の目的・ねらいを明確にする

主体的な学びのため、児童・生徒(参加者)の興味や関心ごとから学習のポイントをしばってはいかがでしょうか。

★学び合いの視点をもつ

相手の考えを認め合い、一緒に学び合う学習が大切です。援助する側の学びだけでなく、援助を受ける側の視点に立つことも重要です。

★個人を全体で捉える視点をもつ

障がいや困難は「個人の問題」ではなく、「個人と環境の相互作用によるもの」と捉えます。相手を理解するうえで大切な視点です。

★丁寧な振り返りを行う

体験を共有した仲間と体験の学びを整理し、自分自身や地域のこと、さらには社会への問題意識など、将来に向けて視野を広げられるよう、学びを導くことが大切です。

モデルケースの紹介

日時	目的	4年1組	4年2組
<u>1月15日(水)</u> 5.6 時間目	導入	講話③「ふくしについて」 クイズや寸劇で楽しく「ふくし」を学ぶ。 障がい当事者と交流する。 (多目的室にて、2組合同で実施)	
<u>1月22日(水)</u> 3.4 時間目	体験 ①	車いす体験	アイマスク体験
5.6 時間目	体験 ②	アイマスク体験	車いす体験
<u>1月29日(水)</u> 3.4 時間目	体験 交流	近くの高齢者施設、障がい者施設、 地域サロン等を訪問し、交流する。	
<u>2月5日(水)</u> 5時間目	振り返り /まとめ	参観日で学んだ事 を発表する	参観日で学んだ事 を発表する

※福祉教育においては、福祉協力校の助成金を有意義に活用しましょう！

体験メニュー

※①～③は、市政宅配講座です。熱中症予防のため、6月～10月を除く時期を推奨します。

①車いす体験（心のバリアフリー教室）

- ・車いすの操作方法や安全な使い方を学ぶ。
- ・2種類の体験 ①自分が乗って走る(自走) ②車いすを押す(介助)
- ・段差やスロープを走行し、車いす当事者の気持ちを考えることにより、バリアフリーの意味や必要性を考える。

対象	(目安として)小学4年生以上 ※2人1組(または3人1組)
所要時間	約2コマ(90分～120分程度) ※人数によって変動
場所	体育館、ユニバーサルトイレ、スロープ等周辺施設
指導者	市役所・都市計画課 職員1～2名 福祉教育ボランティア Smile♡ 数名
貸出機材	車いす(社協)
用意するもの	マット2枚、カラーコーン5～6本、パイプ椅子15脚程度



②高齢者疑似体験（心のバリアフリー教室）

- ・加齢による身体的変化について学ぶ。
- ・実際におもりやサポーター等を装着し、身体の動かしづらさや耳の聞こえにくさを体験する。
- ・付き添い介助の体験をすることで、高齢者を思いやる・気づかう心を学ぶ。

対象	(目安として)小学4年生以上 ※3人1組(体験・介助・観察)
所要時間	約2コマ(90分~120分程度) ※人数によって変動
場所	体育館等
指導者	社協・ボランティアセンター 職員1~2名 福祉教育ボランティア Smile♡ 数名
貸出機材	高齢者疑似体験セット(社協)
用意するもの	各自軍手、長机 4つ、パイプ椅子 6脚程度、 ホワイトボード2枚、マグネット、バケツ、雑巾



③アイマスク体験（心のバリアフリー教室）

- ・アイマスクを装着して、「見えない世界」を体験する。
- ・視覚障がい者を介助するガイドヘルプの方法を学び、どのようなサポートができるか考える。

対象	小学4年生以上 ※2人1組
所要時間	約2コマ(90分～120分程度) ※人数によって変動
場所	視聴覚室、音楽室、教室等
指導者	社協・ボランティアセンター 職員1～2名 福祉教育ボランティア Smile♡ 数名
貸出機材	アイマスク・白杖(社協)、点字ブロック(市役所)
用意するもの	ティッシュペーパー(1人1枚)



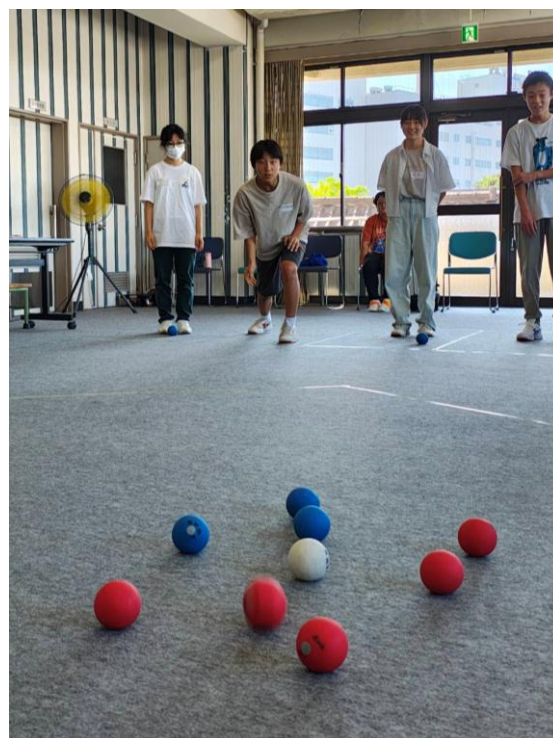
④ ボッチャ体験

※モルック体験も可

・パラリンピック公式競技として、幅広い世代に人気のある「ボッチャ」。年齢や障がいの有無に関係なく、スポーツを通して共生できることを学ぶ。

・「ボッチャ」とは、ゲームの特徴や戦略法などから「地上のカーリング」とも呼ばれている。的であるジャックボール(白)に、1チーム6個のボール(赤/青)に近づけるように投げる競技である。ボールは投げても蹴っても転がしても OK！個人戦や団体戦で競う。

対象	小学生以上 ※2～3人のチーム
所要時間	約2コマ(90分～120分) ※人数によって変動
場所	体育館等
指導者	ひまわり 21(ボランティア団体) 社協・ボランティアセンター 職員 福祉教育ボランティア Smile♡ 数名
貸出機材	ボッチャセット(社協)、ボッチャシート(必要な場合)
用意するもの	ホワイトボード(ペン含む)、養生テープ、マグネット



講話メニュー

①障がい当事者の講話

市内で暮らす障がい当事者の方をお招きして、実際にお話(生い立ちやふだんの暮らし、生活する上で工夫していること等)を聞く。障がい者の気持ちをイメージすることで、思いやりの心を育むと共に、地域課題等を発見する手がかりを得る。

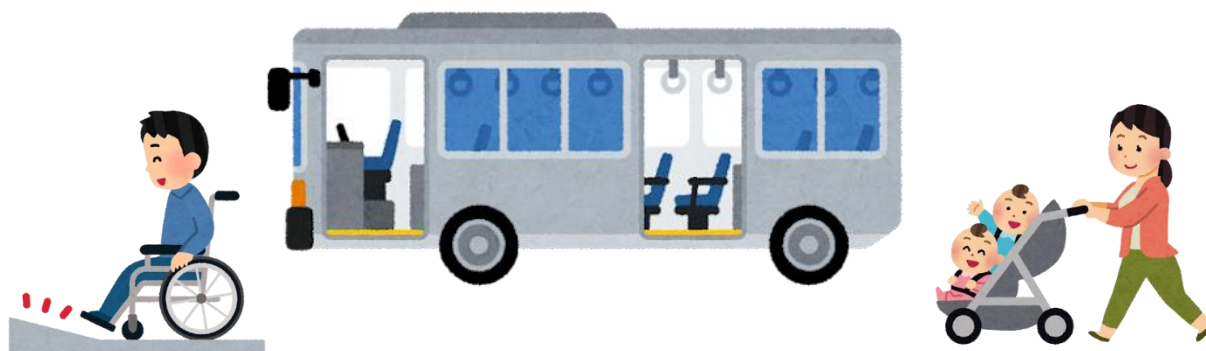
講師	1, 身体障がい者【車いす】 2, 視覚障がい者【アイマスク・白杖】
所要時間	1コマ(45分程度)
場所	教室・視聴覚室・体育館等
用意するもの	プロジェクター、スクリーン、机、いす、 マイク(状況による)



②ユニバーサルデザインのまちづくり

全ての人がまちの中を自由に移動できるよう、鉄道やバス、道路、信号機等に加え、多くの市民が利用する建築物や公園、駐車場など、「熊谷市バリアフリー基本構想」を中心にまちづくりの取組みについて考える。

講師	市役所・都市計画課 職員1~2名
所要時間	15分~
場所	教室・視聴覚室・体育館等
用意するもの	プロジェクター、スクリーン、机、いす、マイク(状況による)



③ふくしについて

障がい者施設の職員や障がい当事者と一緒に、〇×クイズや、寸劇をして、楽しく「ふくしとは?」「障がいとは?」を参加型で学ぶ。障がい当事者との交流を通じて、「ふくし」をより身近に感じることができる。

講師	埼玉県発達障害福祉協会・しょうがいふくしのタネ 数名 知的障がい等の当事者
所要時間	2コマ(90分程度)
場所	視聴覚室・体育館等
用意するもの	プロジェクター、スクリーン、机、いす、マイク(状況による)



④ともに生きる「ふ・く・し」について

『ともに生きる「ふ・く・し」について』(埼玉県社会福祉協議会発行のパンフレット)の slides を用いて、「ふだんのくらしのしあわせ」について考える。

身近な福祉課題や地域の福祉課題について、自分には何ができるかを考える。

講師	社協職員、福祉教育ボランティア Smile♡
所要時間	30分～45分程度
場所	教室・視聴覚室・体育館等
用意するもの	プロジェクター、スクリーン、机、いす、マイク(状況による)



地域の協力団体一覧

福祉教育にご協力いただける地域の団体を紹介します。

	団体名	内容
1	福祉教育ボランティア Smile♡	市役所や社協と協働し、学校等での活動を行う。
2	特定非営利活動法人 自立生活センター遊 TO ピア	障がい当事者が講話を行う。
3	ひまわり 21	ボッチャ指導・モルック指導を行う。
4	埼玉県発達障害福祉協会 しょうがいふくしのタネ	県内の障がい者施設の職員で構成され、現場の生の声が聞ける。障がい当事者との交流。
5	埼玉県パラスポーツ指導者協議会 埼玉県障がい者モルック協会	パラスポーツ全般(ボッチャ・モルック等)の指導を行う。
6	民間金融機関	金融・保健教育、SDGs教育。学齢に応じた、金融リテラシー向上を目的とした「お金」や「保険」に関する授業の開催。
7	ふれあいいいききサロン※	サロンに集まる近所の方、ボランティアの方と交流。
8	市内福祉施設	施設を利用されている方や職員との交流。
9	ボランティアグループ	ボランティアの体験や交流、活動のお話を聞く。

※ふれあいいいききサロン:地域を拠点に住民や団体等が主体となり、ふれあいを通じた仲間づくりや心身の健康維持を目的とした通いの場です。

※「手話体験」については、熊谷市教育委員会にご相談ください。(市政宅配講座)

もっと学びたい！体験したい！

「夏ボラ」 = 彩の国 夏のボランティア体験プログラム

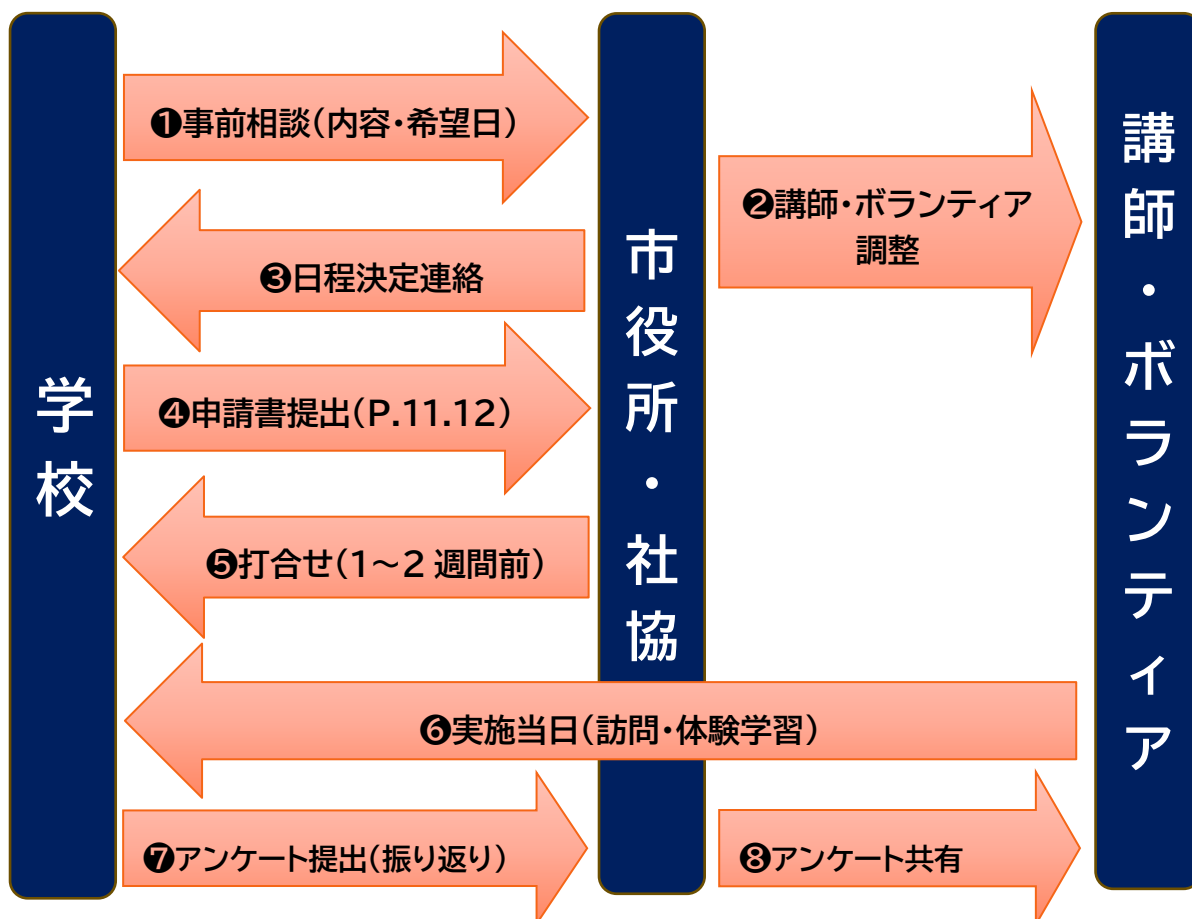
夏休み期間に、保育園・児童クラブ、障がい者施設、高齢者施設等で、実際にボランティア活動を体験することで、福祉の理解を深めることができます。また、親子や小学校低学年でも活動できるよう、さまざまなボランティアグループや企業等が趣向を凝らした楽しい企画を用意しています。積極的に参加してみましよう！毎年6月半ばに、各学校あてにパンフレットを児童・生徒に配布し、参加者募集を開始します。



プログラム実施の流れ/申し込み方法

福祉教育のすすめ方については、実施1～2か月前までに、社協・ボランティアセンターにご相談ください。本冊子の内容をふまえ、ご要望に合わせたカリキュラムを提案させていただきます。体験プログラムをご依頼いただいた場合、市役所及び社協が学校へ貸出機材を持参します。

時間の都合で、先生ご自身で授業を行う場合には、福祉備品のみの借用も可能です。その際は、備品の運搬は学校側でお願いします。(P13.14 参照)



【申込み先】 ※内容によって申込み先が異なります。

	申込み先	内容	申込み用紙
1	社協・ボランティアセンター ☎ 048-525-8745	総合相談/用具貸出 → 体験各種/講話各種 →	備品借用申請書 (P.14) 福祉教育派遣依頼申込書 (P.12)
2	市役所・都市計画課 ☎ 0493-39-4814 市役所・広報広聴課 📠 FAX:048-525-9222	体験①②③/講話①② (市政宅配講座) →	市政宅配講座申込書 (P.11)を広報広聴 課へ FAX する。

市政宅配講座申込書

年 月 日

熊谷市長 小林 哲也 あて
(広報広聴課 FAX048-525-9222)

申 込 者 <small>(会の名称及び代表者氏名)</small>	
住 所	
電 話 番 号	
F A X 番 号	

市政宅配講座を受講したいので、次のとおり申し込みます。

希望日時	年 月 日 () 時 分 ~ 時 分	
	第二希望日	年 月 日 () 時 分 ~ 時 分
希望講座	講座No. 75 講座名「 心のバリアフリー教室 」	
実施会場 (市内に限ります)	会場名「 」 住所： 電話：	
参加予定人数	人	
催しの名称 (目 的)		
備 考 (希望等がありましたら記入してください。)		

福祉教育 派遣依頼申込書

申込日 年 月 日

学校名	小学校	TEL	
	中学校	Email	
	高等学校等	FAX	
担当教諭名	※クラスの雰囲気、特記事項、配慮事項		
学年 人数構成	年 組 名	合計	
	年 組 名		
	年 組 名	名	
目的 ねらい	※子ども達に学んでもらいたいこと・伝えたいこと		
回数	<input type="checkbox"/> 1回 <input type="checkbox"/> 2回以上 全 () 回		
希望日程 希望内容 実施場所	① 月 日 () 時間目～ 時間目 時間 : ~ :	希望内容	実施場所
	② 月 日 () 時間目～ 時間目 時間 : ~ :	希望内容	実施場所
	③ 月 日 () 時間目～ 時間目 時間 : ~ :	希望内容	実施場所
その他			
貸出備品	<input type="checkbox"/> 予約済		
講師調整		その他	
ボラ調整			

※太枠内をご記入ください。実施1～2か月前にはお申込みください。

貸出備品一覧

※備品貸出のみ希望の場合は、社協・ボランティアセンターに電話で仮予約のうえ、P.14の「福祉体験備品借用申請書」をご提出ください。

機材名	貸出数	イメージ
車いす	15	
アイマスク	40	
白杖	35	
高齢者疑似体験セット	小学生用: 8 大人用: 14 特大: 1	
ボッチャ ※シート貸出可 (12畳/3.6×5.4 疋)	7	
モルック ※シート貸出可 (12畳/3.6×5.4 疋)	3	
サウンドボール	2	
点字盤	80	

様式第1号(第6条関係)

福祉体験備品借用申請書

令和 年 月 日

社会福祉法人熊谷市社会福祉協議会
会長 あて

申請者住所

団体名
代表者名
電話

下記のとおり借用申請します。

記

借用月日	令和 年 月 日～令和 年 月 日			
借用理由 (行事名等)				
借用先	使用場所		学年(年齢層)	
	担当者名		人数 名	
借用備品	車いす	台	アイマスク	個
	白杖	本	その他	
	高齢者疑似 体験セット数	中学生～大人用： 小学生用：		
備品確認	1 異常なし 2 異常あり (その理由)			

※備品の破損及び不足等が生じた場合は、借用者が補修・補填をするものとする。

担当	合議	係長	支所長	事務局長

発行元 熊谷市社会福祉協議会・ボランティアセンター

〒360-0042

熊谷市本町 1-9-1 コミュニティセンター1階

TEL : 048-525-8745(平日 8:30~17:15)

FAX : 048-528-0005

Email : k-volun@kumagaya-shakyo.jp

LINE 公式アカウント「熊谷市ボランティアセンター」

ID : @012lcpdr

→チャットで相談もできます！



熊谷市社会福祉協議会
ホームページ→



2026年(令和8年)6月発行